



尾三消防本部からのお知らせ

令和6年の火災状況と分析

火災発生状況

令和6年中における総出火件数は96件でした。令和5年と比較すると2件微増しており、平均するとひと月あたり約3.8件の火災が発生していることになります。昨年の火災による死者は2名、負傷者は12名で、令和5年と比較して負傷者は7名増加しており、火災による負傷者が極めて目立った年となりました。死者の発生は全て住宅火災であり、65歳以上の高齢者が1名となっています。

全火災出火原因別の火災発生状況

出火原因	令和6年	令和5年
たばこ	11	8
こんろ	7	13
ストーブ	0	2
排気管	3	1
電気機器	7	5
電気装置	1	1
電灯・電話等の配線	7	6
配線器具	3	1
火あそび	1	2
マッチ・ライター	0	1
たき火	15	21
溶接機・切断機	1	1
灯火	2	1
衝突の火花	1	1
火入れ	10	5
放火	1	1
放火の疑い	6	5
その他	16	17
不明	4	2
合計	96	94

火災件数等比較

	令和6年	令和5年	増減
総出火件数	96	94	+2
建物火災	40	38	+2
うち住宅火災	22	23	-1
林野火災	4	2	+2
車両火災	10	14	-4
その他の火災	42	40	+2
火災による死者	2	3	-1
火災による負傷者	12	5	+7
住宅火災による死者	2	2	±0
うち65歳以上	1	2	-1

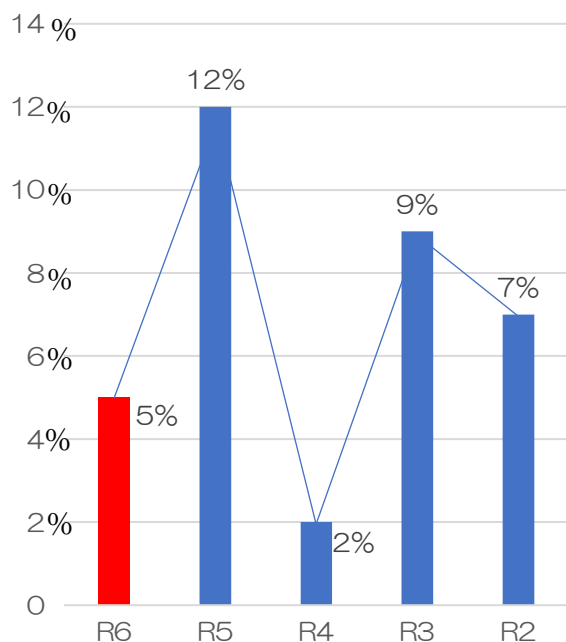
年齢別死傷者数

年齢	死者	負傷者
0～64歳以下	1	10
65歳以上	1	2

出火原因別火災発生状況

全火災出火原因別の火災発生状況から分かるように「こんろ」火災が大きく減少しました。高止まり傾向にあるのは「電灯・電話等の配線」を原因とした出火です。その状況は、主に製品の電気配線や屋内配線の短絡、過熱といったところで、「配線器具」を出火原因とする火災もここ数年で増加しています。全国的に「たばこ」、「こんろ」を出火原因とする火災はいまだに多く発生している状況ですが、近年ではリチウムイオンバッテリーを発火源とする火災が急増し、同時に電気配線や電源プラグを起因とする火災も増加傾向にあります。

こんろ火災発生推移



こんろ火災の低減

火災の出火原因は多岐にわたりますが、令和4年から令和5年にかけて、こんろ火災が急増し、その主な原因として火の消し忘れによるものが多数を占めています。

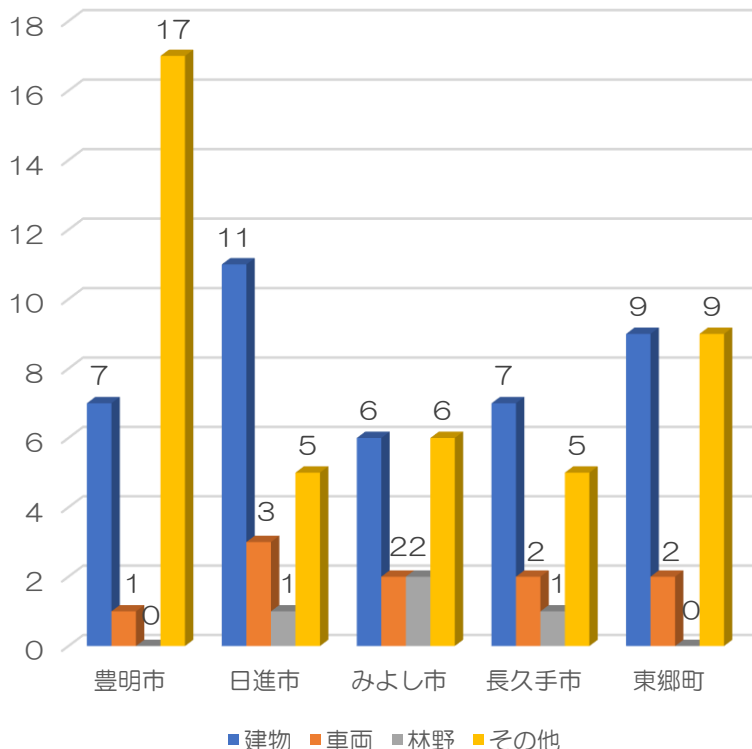
この事態を受け、こんろ火災予防について様々な啓発活動等を行った結果、令和6年中には消し忘れを原因としたこんろ火災が12%から5%に大きく低減されました。

住宅用火災警報器の設置効果

下表を分析すると、焼損程度（損害）に、住宅用火災警報器設置の有無や作動状況が少なからず関係しているものと考えられます。

令和5・6年では、「ぼや・部分焼」35件中「設置あり」が21件とその割合は60%。これに対して「全焼・半焼」10件中「設置あり」は3件とその割合は30%であることから、住宅用火災警報器が設置されていたことにより、その損害を抑えることができたと言えます。

市町別火災種別件数



住宅火災焼損程度別住宅用火災警報器の設置等状況

住宅火災 焼損程度	令和6年				令和5年			
	件数	設置状況			件数	設置状況		
		設置あり	設置なし	不明		設置あり	設置なし	不明
全焼	5	2	2	1	3	1	1	1
半焼	2	0	2	0	0	0	0	0
部分焼	3	3	0	0	2	1	1	0
ぼや	12	7	3	2	18	10	5	3

※共同住宅の自動火災報知設備含む

10年経ったら交換しましょう



住宅用火災警報器は、火災発生時に煙や熱を感知して火災の発生を警報音で知らせます。火災を早期に見つけることができれば避難はもちろんのこと、火災の初期段階で通報や消火ができ、火災による被害を軽減することができます。